

繪本
歌討

岩見英雄錄

三編

四

遠

2509

35-18



遠
2509
35-18

繪中漫遊云云雄録三編卷之四

楠家嘉業裁許之事

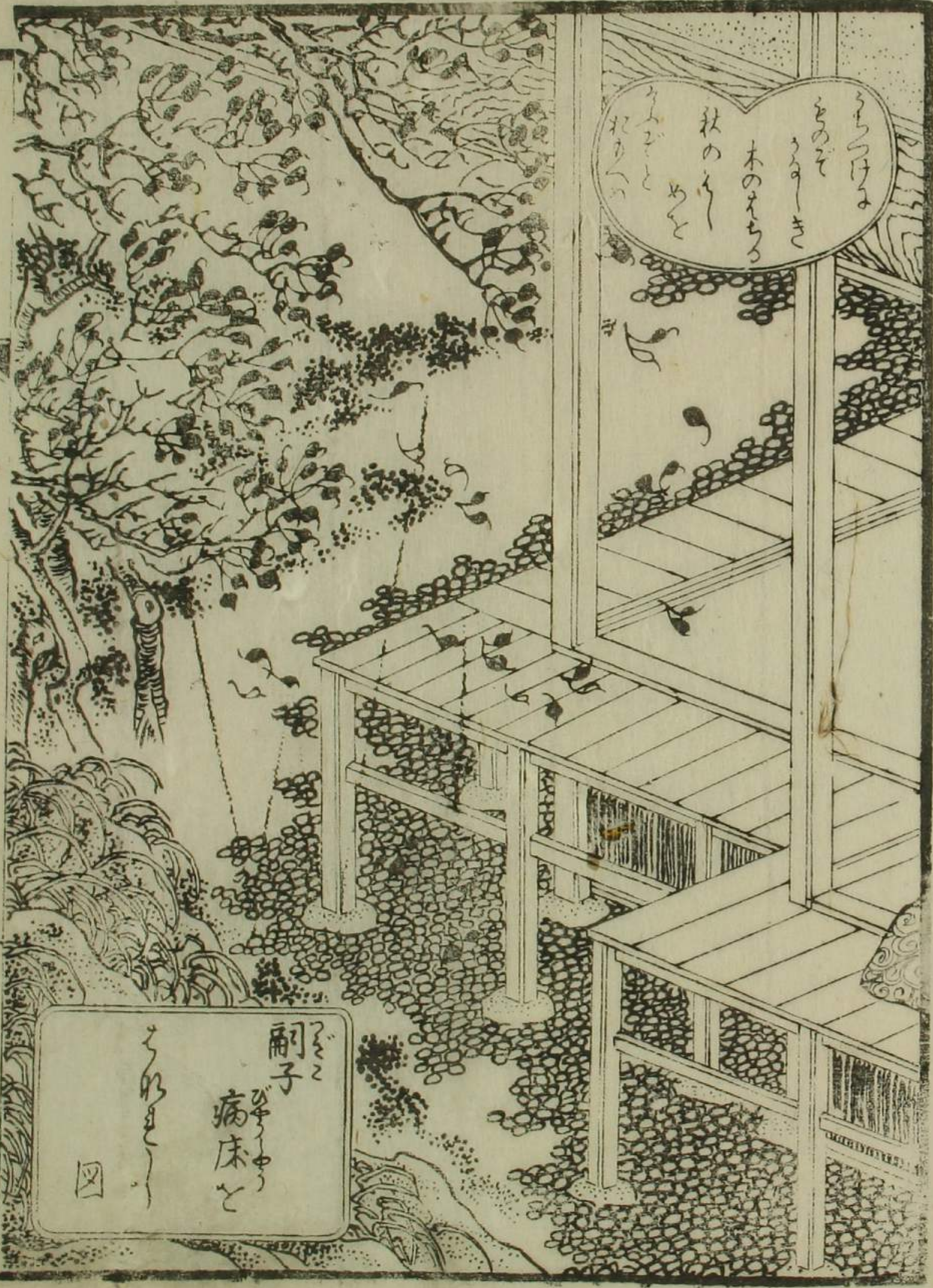
楠家嘉業裁許之事
楠家嘉業裁許之事
其の白物又極く、若くは種多きが、無寛と伴ふ解、又仙石長政の弟と
始、其一手の紐下、言即ち納給と受け、私に酬海と醸せしむる
明白なるし、夫多分若くは同胞と宴會を遷され、後、其意を
の裁許せし及ぶに、先、若くは軍中事、言野が一族と号する處中
と縦横を、科、筆、高、同、罪、たるべきとして、首と刎て、あつたあつた
かけられ、その中、寛仁の沙汰として、二平松の士、荒井十郎、於此
其、中、は、源、和、と、奉、知、し、向、後、と、滅、て、弱、ち、弱、され、又、安、達
控、用、する、始、より、奉、知、す、組、し、二、平、松、の、士、と、歎、誦、せ、た、ゆ、因、と



復元雄録三編卷之四

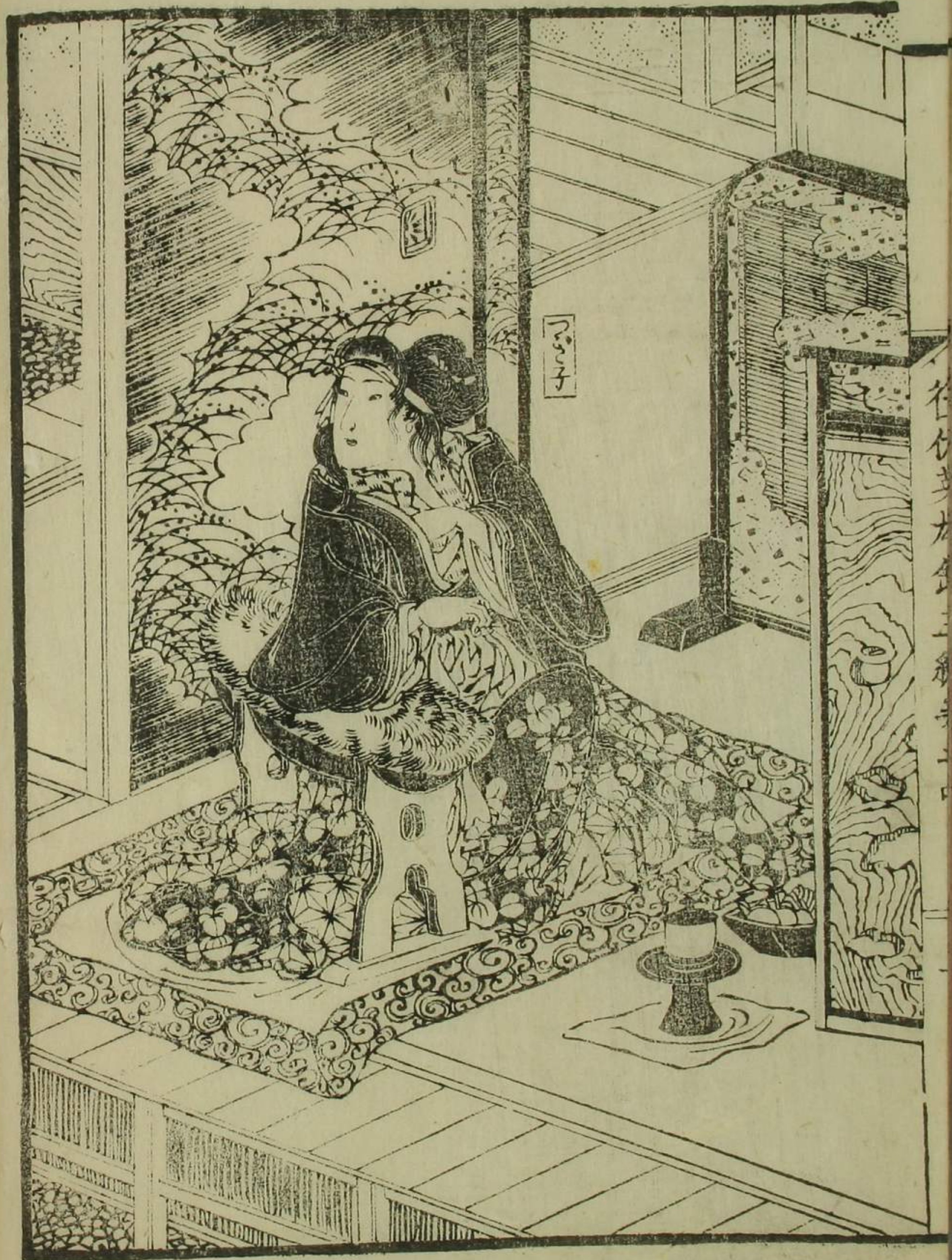
宿婦の如くかたし旅の抱へ運くと送られくろみぞ同抱是
 と多がく。あひ無て今候とそ多見くる。新も送ある見今抱
 あひ。日と経るやどん。宿苦もゆきく。とくくして七月の下旬
 入。増進く。知て。後の秋まで打ながり。自ら公と感る
 わど。入候れども。後ありれむ。この遠宿症。愈さる。とく
 せ。く。これ。は。元。の。根。も。定。り。な。ら。ず。ば。而。早。晩。よ。又。悪。き。ふ
 ら。せ。り。嘆。き。涙。を。流。し。と。た。の。み。な。め。く。り。く。り。あ。ど。
 醫。師。属。か。し。の。持。く。心。を。憂。し。ね。む。じ。も。良。刺。毒。方。の。切。り
 室。く。胸。挽。し。死。衰。て。八月六日とり。少し。猶。使。ら。れ。て。世。を。起。せ。り
 け。く。重。重。ふ。水。死。別。と。告。雅。松。と。娘。今。抱。と。あ。い。誰。く。も。絶。く。り。り
 都。言。う。と。れ。と。流。つ。て。遂。よ。と。あ。る。く。ど。め。ら。る。哀。哉。と。東。慈。苑。の。嵐。雲

と推。蓬。萊。洞。の。月。お。と。照。さ。さ。る。も。め。と。鳴。早。は。女。け。ち。ら。も。あ。も。供。不。戒。天
 の。志。と。抱。十。六。女。王。而。中。國。と。知。し。り。二。年。の。間。の。千。辛。万。苦。も。其
 か。ひ。き。り。と。う。け。き。臨。の。ま。の。く。は。秋。の。雪。の。露。と。消。く。ら。あ。そ。れ
 かり。く。り。り。り。り。り。り。也。雅。松。の。嗣。子。を。養。て。抱。て。い。と。く。扶。て。あ。り。し。が
 尚。る。き。り。り。と。撰。り。す。り。て。嬢。よ。の。の。れ。あ。い。び。や。懐。こ。こ。の。心
 あ。い。し。乎。是。の。つ。ら。あ。せん。依。も。の。た。り。の。あ。こ。と。引。と。あ。り。と
 あ。げ。て。男。泣。ま。ど。泣。あ。く。る。室。を。帝。の。骨。肉。の。う。れ。み。抱。く
 せ。ま。れ。ども。流。る。は。あ。ふ。武。士。の。働。せ。ぬ。結。ぶ。破。屋。く。と。あ。る
 涙。を。い。ひ。泣。く。妹。の。死。散。と。打。ち。り。て。ぞ。熱。熱。く。る。皇。后。平。と
 始。く。く。は。あ。よ。あ。る。か。ど。り。袖。と。絞。ら。ぬ。ぞ。な。り。り。か。り。か。り。て
 あ。ぶ。き。に。あ。く。り。り。が。為。平。よ。う。く。も。嗣。子。死。去。の。後。と。後。所。み



うらけよ
 うらけよ
 うらけよ
 木のえらる
 秋のうら
 めと
 れりへ

副子
 病床と
 夕



つと子

乃ひ一より。災禍孝子のうらふかきなるもむべし。改宗が
 藤原より出で。今更悔くくはせめてはまゝ家の物とも
 ちるべきと為て。悪くらの罪と補んと欲と。世政系が傲志
 と從て。香飯をあらわ呼とと云はれては。まげて件長
 ありれり。と云はれて。又雅松と呼と。け
 飯と強りきき。右平も兼く。岡をくくや。かれば。是に
 因して。後又忠んり。す。先んり。まを帝。今うの固持とるも
 あり。り。とて。遂に香飯と云はる。れ。田田も。幸儀のこを
 あら。色代して。ぞ。り。る。ま。所。雅松と。後平と。つとて
 備家の脱討。等。用。より。ま。し。い。う。乎。せ。し。と。決。め。れ。ば。
 皇後平の曰先。雅松氏に死して。早。宇。給。ま。い。を。事。と。さ。し。り。

せり。入。り。そ。あ。う。く。ぐ。れ。と。ヤ。ク。ク。ふ。ぞ。實。然。く。そ。と。て。あ。後
 一。又。為。れ。ば。雅。松。小。金。子。と。齋。せ。り。邪。ま。く。出。て。為。ん
 と。定。ま。り。と。又。田。田。兼。多。房。未。て。曰。今日。改。宗。中。入。り。の。ま。ん
 氏の。無。寛。既。二。解。中。分。り。れ。ば。後。は。ま。り。ま。り。後。松。の。好
 と。な。ら。ば。む。る。に。業。め。り。そ。上。今。有。あ。り。嗣。子。一。七。日。も。こ。め。む。ば。
 其。家。中。を。死。せ。れ。而。不。と。養。は。れ。仇。と。追。ま。り。と。の。り。り。後
 その。ま。ま。大。川。ゆ。所。廣。津。こ。の。姓。名。先。日。取。り。し。り。改。宗
 等。を。得。て。隣。の。い。ち。乃。と。り。南。於。津。野。の。果。ま。で。も。或。は。死。ま
 へ。使。去。と。ぬ。く。ら。か。む。或。は。藤。中。へ。密。く。人。を。遣。て。や。り。ひ。あ。ま。ひ。く
 宗。指。せ。り。と。も。似。よ。り。の。者。も。無。新。性。よ。す。く。り。と。ば。先。皇。弟。の。間。の
 高。の。部。あ。り。て。是。より。更。東。深。遠。く。を。へ。水。戸。より。お。戸。の。わ。ら。う。と。未

由らんこそ懸べうらん乎。附ての政系英雄涓望の事より内
 而令中然り。今昔拙者と後上野介邸へ是臨しめん
 りと。然中入へる有。政系中付ていせと。入るれば。主事
 同て。実上列。悉意の程。由りて。原恩云。語及が。只
 只作は。遊の。遊系の上。拜附す。んと。回答され。田辺も。
 そ。取返と。収む。時。別。兼。鳩と。約して。ど。為らる。是。は。後。で。雅。松
 ち。平。字。乃。文。の。知。之。一。日。と。延。し。以。致。主。事。同。及。て。漢。通。り
 よ。り。打。立。途。中。少。く。お。き。さん。と。定。め。ら。る。か。く。て。萬。皆。あ。も。さ。り
 ら。れ。ば。田。辺。第。三。坊。再。び。来。り。て。去。系。上。列。の。邸。へ。供。せ。ん。と。し。て。
 雅。松。及。主。事。等。も。打。立。色。で。上。社。介。邸。へ。ぞ。参。り。し。る。
 若。又。主。事。等。亦。興。猶。政。系。對。面。之。事。

越若楯上野介政系方。少の今有。若人。主事。亦。帝。後。亦。對。面
 せん。と。し。て。席。と。後。く。ゆ。あ。ら。う。ふ。雅。松。と。田。辺。第。三。坊。云
 次。に。主。事。等。亦。帝。後。亦。對。面。して。政。系。も。席。と。同。り。し。て
 名。對。面。に。先。主。人。と。も。小。眉。の。あ。ら。う。眼。け。が。ら。あ。ら。し。て
 敬。法。く。身。體。終。往。肥。て。威。儀。堂。々。たる。英雄。の。容。姿。に
 政。系。も。不。感。じ。の。よ。し。一。喝。望。の。あ。ひ。と。は。し。ら。る。主。事。亦。帝
 敬。而。好。ま。と。き。ら。う。と。お。附。し。ら。れ。ば。政。系。も。終。と。返。し。て。曰
 政。系。も。少。し。て。兎。後。に。敷。れ。ま。る。同。袍。と。共。め。其。亦。差。入。り
 主。事。の。妻。細。田。邊。第。三。坊。上。り。云。入。り。少。事。を。し。て。い。と。て。嗣。子。が。悼
 とも。漢。ら。早。押。出。り。ん。も。少。事。死。業。少。し。り。が。目。目。ま。れ。り。と
 奏。是。と。い。ふ。附。て。の。寡。君。方。亦。大。丈。輝。華。を。其。の。武。勇。と

送りてぞ入るる。高下た京太夫舞臺を名所と過す。あまう。密に政系が師に入。先よりの政系。後系。対話の極と透入。存多し。その後傑とる。是威あり。つら。その後平ふ。おん。是利家。ふ。進。素と。なりし。竹。菅中。お。終。て。輝。家。は。防。の。事。は。を。名。所。ふ。終。り。あ。ひ。し。と。也。休。を。を。并。あ。ひ。次。の。間。於。て。田。辺。第。一。を。勝。あ。も。千。万。無。志。と。附。て。二。更。の。順。を。洞。田。屋。に。取。り。つ。る。が。名。角。縁。水。を。意。づ。の。う。う。孫。自。深。通。より。水。戸。と。し。て。發。せ。せ。ん。と。定。し。う。先。家。舎。の。主。と。な。り。ぬ。家。お。あ。り。か。ら。う。唯。く。へ。も。多。く。附。地。と。終。り。て。長。く。の。無。志。と。附。あ。ひ。ふ。平安。と。賀。終。致。族。の。あ。う。と。と。如。は。く。明。是。の。八。月。十。二。日。の。未。明。に。雅。松。を。平。と。作。ふ。傑。隊。の。城。下。と。ぞ。打。と。ら。る。け。り。登。り。

城。皆。え。る。取。り。や。藩。中。お。終。り。武。と。無。義。は。進。む。の。壯。士。等。沙。路。取。入。部。早。柳。中。捕。と。始。業。と。名。え。ん。が。武。術。勇。悍。と。慕。の。案。同。拂。曉。より。部。外。お。出。て。そ。の。後。終。り。と。ん。送。り。つ。る。と。う。や。中。あ。も。鳥。羽。田。屋。保。平。の。后。の。程。田。里。を。う。り。も。送。り。名。取。の。先。進。分。あ。く。難。益。と。あ。う。し。て。千。万。平安。と。祝。し。か。が。う。う。か。か。こ。み。ふ。は。と。し。し。と。み。は。ど。別。れ。る。干。益。又。留。は。芭。蕉。の。樹。子。終。り。猥。は。名。え。ん。を。名。所。と。圍。む。仙。も。長。き。傍。の。好。利。ハ。を。後。百。捕。ま。つ。り。貴。家。其。の。白。状。は。偽。り。多。野。が。縮。短。と。う。け。て。私。ふ。名。是。同。胞。と。稱。し。苦。し。め。ら。る。る。を。名。取。致。為。し。う。り。夢。に。宗。と。崇。り。同。族。亦。時。日。と。經。り。ち。に。名。取。見。同。胞。幽。室。と。出。され。る。う。人。と。野。分。より。田。辺。第。一。を。勝。と。り。つ。て。ゆ。く。と。は。村。村。あり。

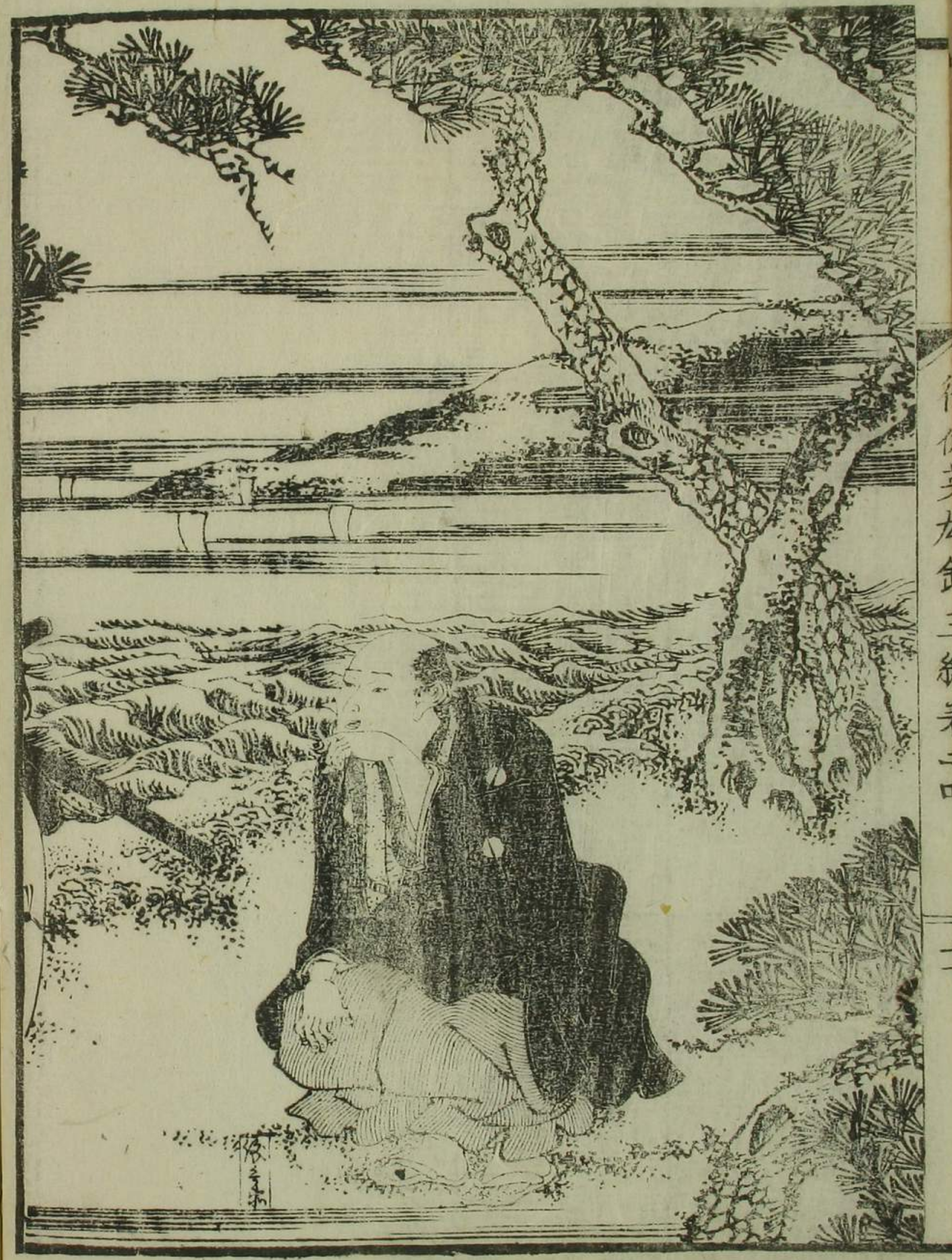
借んとして、高家も係りつるれ、能くと思て回らうれよと怒
 の中、あもるは、又懲り、刑然とぞ判し、うら、刑然呵くと打
 笈ひ、合はん必と考し、うら、遠如、項羽の勇あは、あ、
 子房の智あり、彼も吉、海、則と出、へ、彼捕られ、后るれ、
 若ん、の、面と、人、あ、う、げ、彼と、知、る、若、あ、う、が、擇、て、あ、人、と、借
 る、程、う、係、て、屠、捨、ん、事、も、裏、よ、ま、あ、あ、う、う、う、て、智、と、ひ、て
 や、う、そ、竹、畧、と、説、き、う、せ、う、れ、バ、長、を、あ、う、そ、こ、と、も、と、拍、一
 計、流、得、て、妙、也、賢、光、考、と、い、く、も、げ、け、ひ、ま、り、う、う、う、う、う、
 是、も、あ、ん、が、賢、光、の、預、望、の、象、亦、一、令、に、代、て、も、取、り、つ、べ、ま、こ、う、て
 此、處、の、重、子、若、手、あ、う、へ、て、又、ま、ま、命、と、見、識、さ、る、後、心、の、あ
 業、あ、個、と、呼、出、し、く、お、ほ、う、れ、バ、刑、然、於、の、風、と、滑、り、う、が

やく、勇、之、先、思、う、ん、が、以、向、と、能、み、せ、れ、え、ん、と、て、我、ま、の、こ、う
 も、羽、田、人、と、考、て、撈、ら、ぬ、愈、め、於、漢、通、り、う、う、う、う、て、水、戸、と
 志、し、ゆ、ま、た、と、て、通、教、門、で、の、役、と、考、ま、て、人、を、い、け、ぬ、う、う、
 洋、又、告、う、う、う、う、う、仙、石、ら、ん、舟、大、は、収、び、刑、然、並、み、准、法、と、考
 我、中、の、棟、梁、と、お、ま、る、兼、う、り、通、西、の、捷、路、又、か、や、あ、ん、が、り
 向、の、先、之、廻、り、奇、計、と、考、て、侍、う、け、ん、と、考、み、く、て、知、り、う、う、
 遠、刑、然、と、い、う、れ、う、若、と、い、う、あ、う、仙、石、を、考、ま、つ、が、身、あ、り、て、
 毎、朝、の、志、れ、若、う、て、淫、酒、ふ、あ、う、う、の、う、の、う、の、打、あ、う、う、交、り、う、て
 果、く、ハ、藤、中、と、追、拂、ら、れ、程、の、若、う、う、し、が、中、年、ふ、禪、修、の
 流、分、と、う、り、て、佛、門、は、入、て、う、う、う、う、陳、の、法、跡、と、考、で、山、本、村、さ、り
 桃源、亭、と、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 山、林、と、争、ひ



復九英在象三編卷之四

根松平

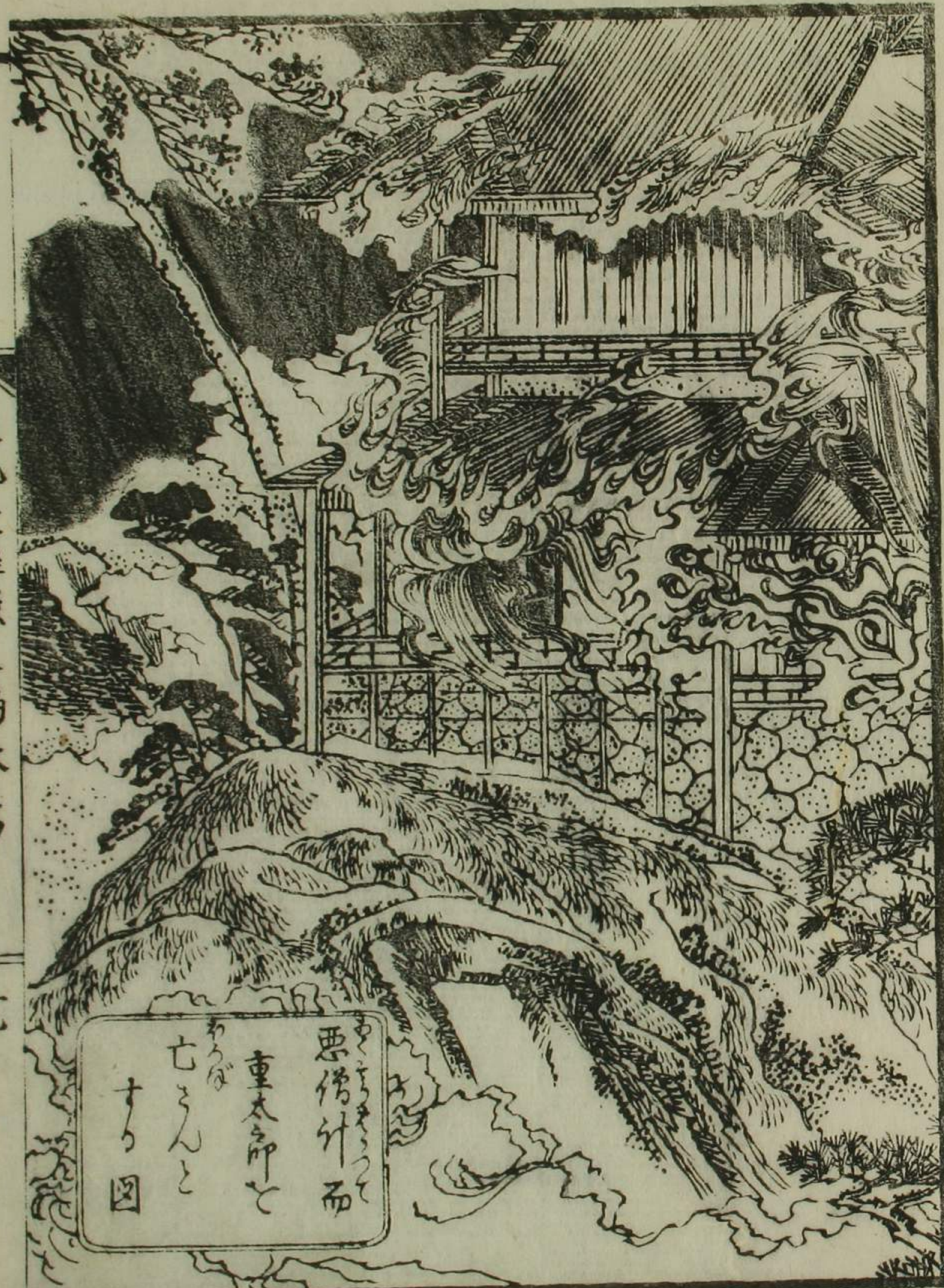


復九英在象三編卷之四

十一

すめめけく。程勢とのそめて曰上列より。函々ふ。さる宮の父兄
 の徳と追ひあさうと。物ふひは先の相も。秋意中。新条の
 中ふ。ゆめりの。若り級。今秋より。版心の若と。馳て。乳ふ
 ぎ。い。が。明。終。の。飯。り。や。ぶ。く。と。な。い。る。心。落。ち。あ。く。ほ。ろ。ぬ。ま。ん
 や。と。と。ま。る。ふ。西。ふ。歌。し。を。演。々。り。を。ま。を。所。務。是。と。や。ひ。く。飲
 近も。赤心と。保ま。り。の。和。尚。の。好。ま。も。赤。り。せ。れ。が。こ。し。と。て。後。回
 謝。う。り。お。う。う。か。ひ。て。後。や。あ。さ。り。く。ん。侍。居。酒。壺。と。う。け。出
 店。を。掃。と。ま。く。め。片。部。の。草。庵。森。海。為。菜。却。而。困。一。ま。い。べ
 くれ。も。途。中。の。芳。と。休。め。ま。か。ん。料。よ。勤。て。用。ひ。あ。へ。と。う。く。
 自。爛。と。試。て。室。を。所。み。で。献。う。る。室。を。所。を。好。ま。と。赤。と
 一。盞。と。試。し。て。店。ま。ふ。別。が。店。ま。は。飲。て。雅。松。よ。持。た。ま。さ。ご。も

雅松の。毎。り。に。中。戸。さ。り。と。と。と。只。壺。と。献。し。ご。う。り。あ。く
 店。ま。あ。ぞ。返。し。と。う。店。ま。く。れ。と。あ。て。赤。岩。か。ん。ふ。置。し。て
 店。ま。と。く。免。う。る。れ。程。先。刻。よ。出。違。ひ。う。る。深。空。別。後。毎。日。は。就
 かり。若。も。い。ご。り。出。く。室。を。所。が。壺。と。乞。憐。と。唱。て。教。訓。次
 ま。く。め。く。時。と。ら。う。く。う。る。あ。ど。小。秋。の。日。れ。書。や。す。し。して。早。晩
 入。お。の。鐘。も。せ。さ。こ。一。宴。果。く。夕。餉。終。う。る。知。文。の。後。ま。ぞ。あ。り
 ぐ。り。二。客。も。今。の。心。を。定。て。は。ふ。一。篇。と。な。ば。店。ま。と。ふ。収。び。ま。ま
 後。と。若。く。待。待。ま。り。愛。の。佛。前。通。く。て。煩。く。や。あ。さ。ん。整
 離。と。密。の。房。の。り。へ。は。是。あ。て。お。ら。う。ら。死。結。の。れ。し。と。と。時。啼。は。密
 け。く。守。て。密。の。房。ま。ぞ。遷。し。う。る。け。密。の。房。と。い。へ。の。庫。裏。と。よ。ま
 り。二。百。歩。ぐ。ら。り。あ。く。て。整。小。さ。さ。あ。よ。ま。て。方。二。間。ぐ。ら。り。ん



復元寺権家三編卷之四

七

悪僧計而
重太師と
七さんと
すの図



復元寺権家三編卷之四

六

まるあり 寝をいさりと懸懸ままは 階子とわうらまは 忠見能松もその
 叮嚀する扱と謝しつゝ 寝て抱ふ附そぞ打卧する。終る不中堂
 の方あてり。床を移復もやらば 侍侍二人と奴僕二人と俵不
 番中。己申中央小中して 盃と飯方。何る乎小夢そぞかきひあり
 々々西へ。床を別取。無城軍勢の有人客房より 何り来りて曰
 二雲佐不懸睡してひぬひそるに階子と飯外よりもかき 誤おそ
 いるりと告言さば。床を激嘆し。まの能くそぞ計つれらる早細
 裏の魚囊中の胤物も 烟ご子よ南の意て 朝する別とり。
 各准備の休乎。去来来れ一め不棄捨んずと云より 早く法衣
 と別の汁。振るく引うげ。高頂不紳奉し ぬちよよ火繩と
 飯あり。子懸と引提て 何れより 何れより 何れより 何れより 何れより

芝のバ 纏しりま三人の懸係二人の奴僕不 法字無城ま
 惜おと引提て。床をよ附そぞかけゆぐる 押這能深座
 と甚態かる若といふよ。響よ ぬぬと打まこつ 徳も長おつ
 才刺鉄入。そ秋程もそ人の奴僕と。高羽田底迫く 殊一
 動く。思ふんが跡とつけさせ己のち個の美意と俵は 馳ゆ
 奇計と彼其上と野分政系が守るりと 倦る。忠足推松と干分
 歌ゆわせ 客房の二階不卧せ 着て 上る 枯くる 勢と接
 至。竊よ外より 門口を貫 誤まこり。形而刺能 何れより
 戸の透間より 火とこく 何れも 素より 籍よく 儲け 飯火の忽小
 薪小らつり 火勢房中小元満。燦構とと 侵 只着火中一 殊
 一守。戸ぞ此れ 何れも 別懸とそぞ ぬぬと 何れより 何れより 何れより

と異^きやうに。百一^{ひゃくいち}板^{いた}戸^こと^と遊^{あそ}ぶ^ぶあ^あら^らて。橋^{はし}上^{の上}より^{より}逃^にを^を知^しる^るを。
 突^つ刺^し捨^すん^んと^と搦^にた^たる^るふ^ふお^おし^しも^も秋^{あき}の^の風^{かぜ}を^を透^として^{して}火^ひを^を
 燦^{きら}くと^と燃^も付^つて^て己^{おのれ}の^の軒^{のき}を^を落^おす^す。崇^{たか}々^{たか}き^き石^{いし}燈^{とう}の^の
 上^{の上}に^に建^たてる^る宮^{みや}の^の房^{ぼう}を^をれ^れば^ば敷^{しき}土^{つち}の^の横^{よこ}に^に飛^とり^り極^{ごく}を^をく^く
 わ^わと^と人^{ひと}狩^{かり}季^き天^{てん}を^をか^かけ^けり。地^ちを^を溜^{ため}る^る水^{みづ}が^が湖^{うみ}の^のり^りも^も逃^にる^る
 危^{あや}し^しと^とい^いふ^ふ足^{あし}を^をさ^さり^りけ^けり

繪が渡世英雄録三編卷之四 畢

